

EU Indicators

欧州経済指標コメント：3月英国労働統計

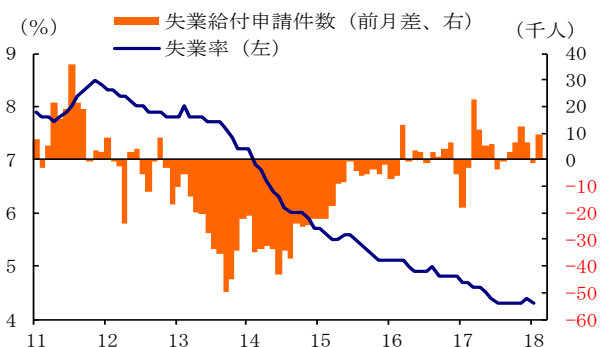
発表日：2018年3月22日(木)

～強めの労働統計で利上げ議論が活発化？～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

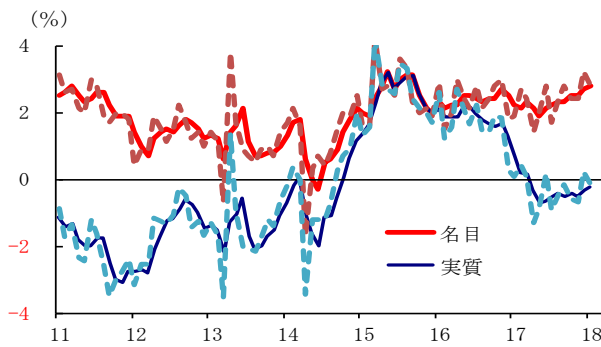
- 21日に発表された英国の失業率（労働力調査）は、1月から遡って3ヶ月の移動平均値で4.3%と、16ヶ月振りに上昇した前月の4.4%から、再び1975年以来の水準に低下。就業者数が3ヶ月前の3ヶ月移動平均値から16.8万人増加、このうちフルタイムが同17.5万人増加するなど、雇用の質も改善。単月では、新たに計算に加わった1月の失業率（4.25%）が同一サンプルの昨年10月値（4.43%）を下回った。来月発表の2月値が4.10～4.39%となれば（同一サンプルの11月値は4.29%）、3ヶ月移動平均値は今月と不変。2月の失業給付申請件数が2ヶ月振りに増加し、同ベースの失業率も1月：2.3%→2月：2.4%に上昇したが、同統計は定義変更などの影響で安定性に欠けている点に注意が必要。
- 全産業の週当たり賃金（賞与を含む）は、1月から遡って3ヶ月の移動平均で前年比+2.8%と、昨年5月の同+1.9%を直近ボトムに上昇率が加速傾向。内訳は賃金・賞与ともに上昇加速。部門別には、2013年来続いた1%の賃上げキャップが昨年見直された公的セクターが加速したうえ、労働需給逼迫やインフレ加速を背景に民間セクターがそれ以上に加速。物価上昇に賃金上昇が追いついてきた。
- BOEは労働統計への事前アクセスが認められており、22日に結果を公表する金融政策委員会（MPC）でも、今回の労働統計を判断材料の一部に用いる。さすがに今月の利上げ決定の可能性は低いが、雇用・賃金を取り巻く環境改善とブレグジット協議の前進は近い将来の利上げを正当化する。

■英国：失業率と失業給付申請件数



出所：英国統計局

■英国：週当たり賃金・賞与（全産業、前年比）



注：実線は3ヶ月移動平均値

出所：英国統計局

■英国の失業給付・平均賃金

	2017										2018	
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
失業率（失業給付、%）	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.3	2.4	2.3	2.4	
失業給付件数（前月差、千人）	11.2	5.1	5.7	-3.7	-0.2	2.6	6.7	12.2	6.2	-1.5	9.2	
失業率（労働力調査、%）	4.6	4.5	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	—	
（単月の失業率、%）	4.61	4.34	4.30	4.37	4.25	4.13	4.43	4.29	4.41	4.25	—	
就業者数（前月差、千人）	108	175	126	182	95	-14	-56	102	88	168	—	
週当たり賃金（産業計、前年比、%）	2.1	1.9	2.1	2.2	2.3	2.3	2.5	2.5	2.7	2.8	—	
賃金	1.8	2.0	2.1	2.2	2.2	2.2	2.3	2.3	2.5	2.6	—	
ボーナス	4.6	-0.9	3.3	1.7	4.7	5.0	8.5	8.1	5.4	6.2	—	

注：労働力調査基準の失業率、就業者数、週当たり賃金は当月で終わる3ヶ月移動平均 出所：英国統計局

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。